

第9回

小児食物アレルギー・喘息 アトピー性皮膚炎 講演会と 講師を囲んでQ&A

テーマ

知ろう！画期的な治療の今
2025

6月8日(日) 無料
12:30~16:00

講演内容

新薬により患者自身が治療を選ぶ時代に、そして症状が改善された方が増えてきている時代になりました。今回も第一線でご活躍をされているそれぞれの領域の専門の先生方から病気の最新の考え方や、治療についてわかりやすくご講演いただきます。



食物アレルギー 山田佳之先生



ぜんそく 関谷潔史先生



アトピー性皮膚炎 勝田倫江先生



特別報告 勝又文徳先生

主催

アレルギーを越えて。あなたらしい生き方を。

認定NPO法人

日本アレルギー友の会

日本アレルギー友の会



当会HP



X



Instagram



自分らしく
生きていく

参加申込はこちらから

左記のQRコード、
またはホームページから
お申込みください。
当日までに招待メールを送ります。
※申込締切 6月6日(金)17時



視聴方法

ご来場: ワიმ貸会議室神田(先着30名)
JR神田駅西口より徒歩5分

オンライン: zoomにて

PCまたはスマートフォンをご準備、
wifi環境をご確認ください

～講演後の動画配信～

当日ご都合の悪い方は、
左記QRコードよりお申し込みいただければ
後日動画URLをお送りします。



03-3634-0865

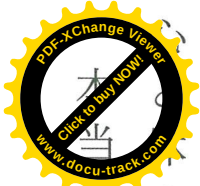
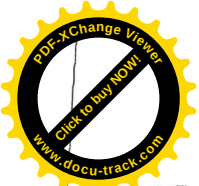
info@j-allergy.or.jp

受付時間: 11:00~16:00

祝祭日を除く毎週火・土曜日

東京都江東区住吉2-6-5

インテグレート村上3階



講演者

紹介

【第1部】講演

食物アレルギー -最近の管理と治療-

山田佳之（やまだ よしゆき）先生
東海大学医学部 総合診療学系 小児科学 教授

【講演内容】

講演概要：食物アレルギーは管理・治療に関する研究や診療体制整備がすすんでいる分野であり、社会の関心も高いことから、日々、多くの情報が発信されている。しかしながら、不確かな情報も散見され、情報の取捨選択がより困難な状況になっている。標準的な診療とそれをふまえた今後の診療の方向性について、共通の認識が得られている内容について概説したい。

【経歴】

1995年 関西医科大学卒業	2003年 米国シンシナティ小児病院メディカルセンター 博士研究員
2003年 秋田大学大学院医学研究科修了	2007年 群馬県立小児医療センター アレルギー・感染症・呼吸器科 医長のち部長
1995年 関西医科大学付属病院 小児科研修医	2015年 同センター 外来診療部長・地域医療連携室長（兼務）
1996年 関西医科大学付属山形病院 小児科医員	2018年 同センター 感染対策室長（感染対策室新設に伴い）および医局長（兼務）
1998年 関西医科大学付属病院 小児科助手（秋田大学出向）	2021年 東海大学医学部 総合診療学系 小児科学 教授
1998年 秋田大学医学部付属病院 中央検査部医員	

将来のリスク回避も見据えてぜんそくを治療する

関谷潔史（せきや きよし）先生
国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科部長

【講演内容】

喘息は、慢性炎症により気道過敏性が惹起され、気道の易反応性により様々な刺激による気道閉塞が起こった結果、症状が誘発される。喘息の良好なコントロールを保つということは、単に「症状がない」ということだけではなく、気道閉塞・気道過敏性、そしてその根本にある慢性気道炎症をコントロールすることが求められる。近年、慢性気道炎症に深くかかわるサイトカインが判明したことで、そのサイトカインを抑制する生物学的製剤が登場し、喘息治療は飛躍的に改善し、現在では、臨床的寛解や臨床的治癒を目標として定められる段階まで来ている。

【経歴】

2001年 東邦大学医学部卒	(現職) 国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科 部長（診療科責任者）
2001年 東邦大学附属大森病院 第1内科 研修医	院内感染管理部門 部長 / 院内感染対策委員会 委員長
2003年 東邦大学医療センター大森病院 呼吸器内科	臨床研究センター アレルギー疾患研究部 気管支喘息研究室 室長
2004年 労働者福祉健康機構東京労災病院 呼吸器内科	
2005年 東邦大学医療センター大森病院 呼吸器内科	
2006年 国立病院機構相模原病院 アレルギー・呼吸器科ならびに臨床研究センター	

アトピー性皮膚炎の治療戦略

勝田倫江（かつた みちえ）先生
東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 講師

【講演内容】

アトピー性皮膚炎は、慢性の経過をたどり、季節の変わりやストレスがかかると再発する皮膚疾患です。痒疹や湿疹の症状があることは多くの人々にとって生活の質を損ない、その治療のために一日のいくらかの時間を割く必要があります。治療には多面的なアプローチが必要であり、新薬の登場によって患者さんの治療選択肢は増えました。この度は、アトピー性皮膚炎の治療戦略と最近の新薬について詳しく紹介します。

【経歴】

1992年 杏林大学 医学部入学	2013年 公立阿佐留医療センター 皮膚科科長 副参事 日本皮膚科学会認定指導専門医
1998年 同上卒業	2017年 東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 講師
1998年 杏林大学医学部附属病院 皮膚科入局	
2001年 杏林大学大学院 医学研究科入学（臨床系 皮膚科専攻）	
2005年 学位（医学博士）受領、同上卒業	
2005年 公立阿佐留病院 皮膚科医長	

特別報告～専門医かつ自らアトピー性皮膚炎患者としての治療体験～

勝又文徳（かつまた ふみのり）先生
東京慈恵会医科大学皮膚科学講座 助教

【講演内容】

私は皮膚科専門医として多くのアトピー性皮膚炎患者の治療に携わる一方で、自身も幼少期からアトピー性皮膚炎と向き合ってきました。本講演では、治療法に関しては控えめに、患者としての実体験を交えながら、生活習慣の工夫、心理的な課題への対応についてお話しします。医療者・患者双方の視点を融合させたアプローチを共有し、アトピー性皮膚炎と向き合う全ての方の一助となることを目指します。

【経歴】

2016年 東京慈恵会医科大学医学部 卒業
2018年 東京慈恵会医科大学附属第三病院 初期研修終了
2018年 東京慈恵会医科大学皮膚科学講座 入局
2021年 自治医科大学附属病院
2023年 自治医科大学附属病院さいたま医療センター
2024年 東京慈恵会医科大学附属病院

【第2部】Q & A ※時間の都合上、全てのご質問にお答えできかねる場合もございますことを予めご了承ください。

事前申込時の質問と、当日チャットで皆様のご質問に専門医がお答えします。他の方のご質問を聞くことで、ご自身にも役立つ情報があるかもしれません。ぜひご質問をお寄せください。

～司会～

坂本 芳雄 先生
安藤・間診療所 所長

山口 正雄 先生
帝京大学ちば総合医療センター第三内科(呼吸器)教授

江藤隆史 先生
東京通信病院皮膚科客員部長
おたけ内科副院長

【後援】厚生労働省 東京都 千葉県
独立行政法人環境再生保全機構
公益社団法人日本医師会
公益財団法人日本アレルギー協会
一般社団法人日本アレルギー学会
一般社団法人日本小児アレルギー学会
公益社団法人日本皮膚科学会
日本臨床皮膚科医会